

エシカルとは？

サステナブル（持続可能性）をめざす社会の中で、地球環境や人間、社会、地域に配慮した考え方とその行動を表す、「エシカル」という言葉があります。

本来「エシカル」とは、『倫理的な』『道徳的な』といった意味を持つ形容詞なのですが、最近では**法律の定めにはないけれど、多くの人が正しいと思う社会的規範**を表す言葉として用いられています。

このような考え方で消費行動を捉えた「エシカル消費」は、産業の近代化と資本主義社会が発展する中で積み重ねられてきた環境破壊・労働の搾取・安全性の軽視など、現在表面化する様々な社会的課題に対し、「エシカルな製品（商品）を購入して社会に貢献する」消費者側のアクションで解決しようとする取り組みです。

例えば・・・「これ安い♡」とあなたが手に取った商品の裏側（低価格で販売するため）には、もしかすると、教育を受けられず強制的に働かされている子どもや不当な賃金で労働を搾取されている人、違法な伐採や開発で再生できなくなる森林、大量栽培のために過剰な農薬散布が繰り返されるコットン畑、生きたまま羽毛をむしり取られる水鳥、すぐに壊れてゴミになってしまうもの・・・様々な見えない不都合な事が隠されているかもしれません。

そもそも「着る」「食べる」「飲む」「使う」すべてのものは、自分で作ったものでない限り、必ず誰かがどこかで作ってくれたものです。**どこで・誰が・何から・どのようにして作っているのか**、そしてそれは**環境に負荷をかけていないか、見えない何か（誰か）に犠牲を強いてはいないか**・・・知って、考えて、購入する。これが「エシカル消費」「エシカル購入」とよばれるものであり、「貧困」「人権」「気候変動」という世界3大課題を解決しようとする考え方がエシカルなのです。

私たち「エシカルなインテリア研究会」はインテリア領域における持続可能性をエシカルな視座から検討し、インテリア職能者（インテリアコーディネーター／インテリアプランナー／インテリアデザイナー／建築家など）の立場で、消費者とインテリア製品関連企業を含む作り手側の「エシカルに対する意識」を相乗的に高めるための活動を目的としています。

研究会の活動と、
エシカルなインテリアに関する
情報はこちらをご覧ください。



<https://www.ethical-interior.com>

✉ info@ethical-interior.com

* IDM (Interior Design Meeting)

国内のインテリア領域に関わる主要な職能団体を主体に、関連協力団体と連携してインテリアの重要性を共有し、社会的役割を果たしながらインテリア界の活性化・発展を目指す組織体

ethical choice and use



Vol.1

インテリアでエシカルって？

最近 CM や雑誌でも「エシカル」という言葉をよく見聞きするようになりました。オーガニックやフェアトレードなどのエシカルな商品がスーパーやコンビニに並び、アパレル系でもマイバッグ持参を促すお店が増えています。(エコもエシカルな考え方・取り組みのひとつです。)食やファッションでエシカルが浸透している理由のひとつに消費者意識の向上と「認証ラベル」の普及が考えられます。



表示マークがあることで、エシカルな製品を選択できる場面で着実に増えていると言って良いでしょう。

エシカルな認証ラベルの例

| | |
|---|---|
|  <p>MSC 持続可能で、環境に配慮した漁業で獲られた水産物の証。「海のエコラベル」</p> |  <p>FSC 森の動植物、地域の人々に配慮し将来も豊かな森を維持できるように管理された森の木材が使われていることを証明するマーク。</p> |
|  <p>GOTS オーガニックの繊維製品の認証マーク。有機栽培(飼育)の原料から環境と社会に配慮し加工された事を示すマーク。</p> |  <p>QCS 原料から最終製品までの履歴を追跡し、その商品がオーガニック繊維製品であることを証明するマーク。</p> |
|  <p>GRS 製造から最終製品までの履歴を追跡し、商品がリサイクル原料使用であることを証明するマーク。</p> |  <p>レインフォレスト・アライアンス レインフォレスト・アライアンス認証は、産地の環境や人々の生活向上のため、厳しい基準をクリアした事業に与えられる認証マーク。</p> |
|  <p>国際フェアトレード 開発途上国の生産者への適正価格の保証や、人権・環境に配慮した一定の基準が守られていることを示すマーク。</p> |  <p>WFIO 主な事業として、フェアトレード活動を展開していることを保証された団体が生産し、取引した商品を表すマーク。</p> |
|  <p>RDS 食用の鳥から取られていること、生きたままの羽毛採取がされていないことなど、動物愛護の観点を取り入れた原料から最終製品までの基準。</p> |  <p>有機 JAS JAS 法で定められた有機生産基準で生産、加工された食品。自然の力で生産されていることを示すマーク。</p> |

家具等のインテリア製品は比較的価格も高く、長期の使用が想定される「耐久消費財」です。そう簡単に買い換えたりできる物ではないので、日用品の購入に比べより慎重に、時間をかけてあれこれ見比べる事になりますね。



決め手は様々ですが、インテリアの選択基準(品質・価格・嗜好)に「エシカル」を加えてみてはいかがでしょうか?

- 材料の調達から製造の過程で、環境や社会に負荷を与えないことが明らかなもの。
- 長期使用に耐えられる、または再生可能なものであること。
- 購入する事により、地域や誰かを応援することになるもの。

この製品が何からどうやって作られたのかを知る。サステイナブルな製品であることを知る。込められた作り手の思いを知る。知るとなんだか愛着が生まれるものです。同じようなデザインなら、より愛着を持ってそうな方が、手をかけて大切に使用できるような気がしませんか? メンテナンスをしながら長く使用することは、ゴミの削減にもつながります。

そうです。「ゴミにしない」こともエシカルです。海で起きている「海洋プラスチック問題」は、安価で便利なプラスチック製品を使い捨て、正しく処理をされないものがプラスチックごみとして海に流出し生態系に悪影響を与えているというもの。インテリア製品の素材にもプラスチックはたくさん使用されていますが、プラスチックが悪なのではなく、気軽にゴミにする事が問題なのです。素材が何であれ、大切に使用して、廃棄する時も正しく処理できる再生可能なものを選択することが、インテリアでエシカルを実践することにつながります。

【たとえば木材でエシカルインテリア】

インテリアには床や建具、家具などに表面材だけでなく見えない所にもさまざまな木材が使われています。そして「国産材は高い」というイメージが定着し、外来材を用いた製品が依然多いという現状があります。例えば、国内木製家具における木材消費量は約 72 万 m³で、そのうち国産材の使用は 6 万 m³。9 割以上が外来材を使用している事になります。実は先進国の中で国土面積に対する森林率がフィンランドやスウェーデンに次いで日本は第 3 位。森林の保有率が高い国なのです。

■各国の森林率



(出典：FAO「Global Forest Resources Assessment 2017」)

国産材が普及しない理由には、広葉樹の流通ルートが整備されていないことや、スギやヒノキなどの針葉樹は外来材の普及で価格が下がり、間伐などの手入れが行き届かなくなったことで木が細り、さらに需要が減ってしまったことなどがあげられます。そこで「積極的に木を使うことで木を育てることができる」と、国産材や間伐材を利用した木製品が開発されています。地産地消、林業の活性化への取り組みですね。

また、木材は「適材適所」で選ぶもの。国産材にはない良さや必要性に応じて外来材も使用します。その際は、無秩序な違法伐採に関係していないものを選ぶことがポイント。熱帯林を中心とした森林減少による温暖化の防止をはじめ、環境に配慮した材料を選択することがエシカルな行動です。「森林認証制度 (FSC・PFSC)」は、適切に管理された森林から切り出された証明と、加工から流通経路の管理に対する認証でトレーサビリティを明らかにしています。左表の FSC マークを店頭やショールーム、カタログ等で探してみましょう。